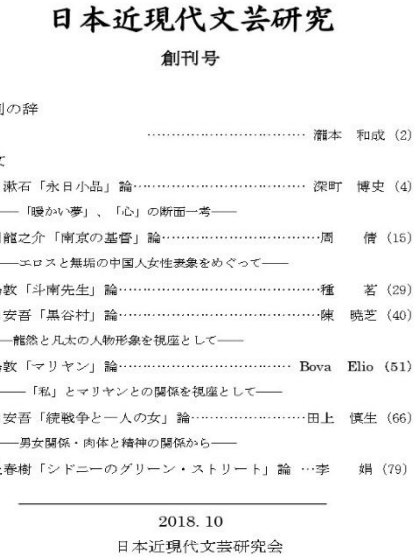
日本近現代文芸研究会

文学研究科日本文学専修 D3　大西洋平

第1号目次



日本近現代文芸研究

創刊号

創刊の辞

……瀧本　和成（2）

論文

夏目漱石「永日小品」論……深町　博史（4）

――「暖かい夢」、「心」の断面一考――

芥川龍之介「南京の基督」論……周　倩（15）

――エロスと無垢の中国人女性表象をめぐって――

中島敦「斗南先生」論……種　茗（29）

坂口安吾「黒谷村」論……陳　暁芝（40）

――龍然と凡太の人物形象を視座として――

中島敦「マリヤン」論……Bova　Elio（51）

――「私」とマリヤンとの関係を視座として――

坂口安吾「続戦争と一人の女」論……田上　慎生（66）

――男女関係・肉体と精神の関係から――

村上春樹「シドニーのグリーン・ストリート」論…李　娟（79）

2018. 10

日本近現代文芸研究会

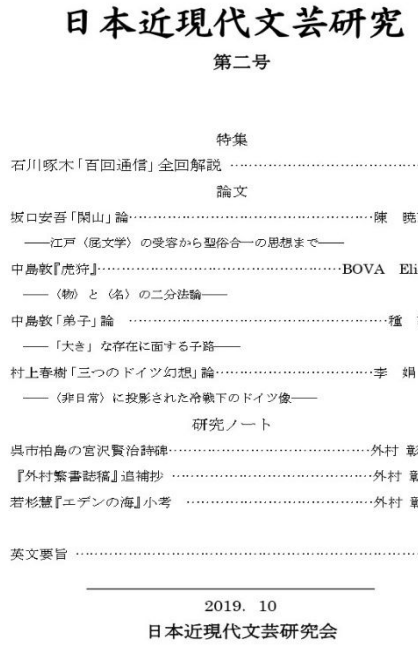
創刊号は瀧本和成氏による「創刊の辞」と自由投稿論文７本で構成されている。なお本誌末尾には各論文の英文要旨が掲載されている。

「創刊の辞」に書かれているように、本誌の意図は国文学系雑誌が続々と休刊・廃刊され、国文学系研究者がその研究内容を発信する場が乏しくなったことに端を発している。

「論文」は論者各位の問題関心に基づいて執筆された。各論文は外部審査員を含めた公正な審査体制によって査読されている。論文投稿後、執筆者は研究会にて論文執筆を振り返り、執筆（研究）のうえで直面した課題を一般化しながら発表した。こうしたフィードバックの場を設けることは執筆者のみならず、その他の者にも問題共有されることで今後の研究記述の在り方を見直す場としている。

なお次号以降、資料紹介なども含めた「研究ノート」欄を創設し、フレキシブルに問題提起ができるような場を用意することとした。

第2号目次



日本近現代文芸研究

第二号

特集

石川啄木「百回通信」全回解説 ……（2）

論文

坂口安吾「閑山」論……陳　暁芝（61）

――江戸〈民文学〉の受容から聖俗合一の思想まで――

中島敦『虎狩』……BOVA　Elio（77）

――〈物〉と〈名〉の二分法論――

中島敦「弟子」論 ……種　茗（91）

――「大き」な存在に面する子路――

村上春樹「三つのドイツ幻想」論……李　娟（105）

――〈非日常〉に投影された冷戦下のドイツ像――

研究ノート

呉市柏島の宮沢賢治詩碑……外村　彰（121）

『外村繁書誌稿』追補抄 ……外村　彰（127）

若杉慧『エデンの海』小考 ……外村　彰（131）

英文要旨 ……（145）

2019. 10

日本近現代文芸研究会

第二号は特集「石川啄木「百回通信」全回解説」を企画した。この特集で対象とした「百回通信」は、『一握の砂』等の短歌で有名な文学者・石川啄木が岩手日報社で新聞記者として働いていた時代に連載していた記事である。1909 年 10 月 5 日～11 月 21 日にかけてほぼ連日執筆された日録のようなスタイルをとるこの連載には文学論のみならず、国際情勢・国内政治・教育論まで広汎な視野を持ち、今日の歴史記述がスキップしてしまった動向を克明に伝える。この連載を注釈・解説することは、明治時代を、あるいは今日まで連綿と続く歴史を復元する営為のひとつである。

研究ノートは外村彰氏の３本が投稿された。「呉市柏島の宮沢賢治詩碑」は氏の活動拠点である広島県呉市と文学の文化的な結びつきを示した。近年、『文豪アルケミスト』や『文豪ストレイドッグス』をはじめとした文学とアダプテーションが注目されつつあるが、氏の研究ノートもこうした身近な環境の中に息づく文学の姿を報告する。「『外村繁書誌稿』」および「若杉慧『エデンの海』小考」はともに詩人を対象としたノートである。残念ながらこの 2 人の詩人はともに今日の文学史では“忘れられてしまった”文学者である。氏のノートにはそうした文学史が忘却してしまった人々の作品・伝記事項を踏査することで、文学の歴史を更新する作業でといえる。

＊配布先大学（順不同）

国立国会図書館・文教大学越谷図書館・早稲田大学戸山図書館・慶応義塾大学図書館・法政大学市ヶ谷図書館・明治大学中央図書館・東京大学総合図書館・立命館大学衣笠図書館・同志社大学今出川図書館・関西大学総合図書館・関西学院大学図書館・吉林大学前卫校区南区图书馆・北京師範大学外国語学院日本語学部